

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年1月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2871200370		
法人名	特別医療法人 敬愛会		
事業所名	三田温泉シルバーホーム		
所在地	三田市東山897-1 電話 079-568-5260		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年12月2日	評価確定日	平成21年1月19日

## 【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算	8.85人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5 階建ての 1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 ~ 55,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,010 円		

## (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三田温泉病院
---------	--------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、三田市街地から車で約15分の自然に囲まれた高台にあり、鉄筋コンクリート造りの建物の5階部分の1階にある。事業所は広く、整理・整頓がなされ、また利用者が休息しやすいように、ソファ等が設置されている。母体である特別医療法人の病院と老人保健施設が併設され、医療面でのバックアップがある。現在は、地域住民との交流に配慮するとともに、管理者・リーダーを中心に家庭的な環境のもと、個性尊重・馴染みの関係の理念が反映されたケアの充実に努めている。今後は、さらにより良い地域との関係作りの実践に期待したい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回の評価結果をもとに、管理者・リーダーを中心にして課題の改善に取り組んだ。また、職員も各自の改善策を出すなどして、できることから取り組んだ。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	今回の自己評価は、管理者・リーダーを中心にしてたたき台を作成し、カンファレンスを開き取り組んだが、一人ひとりが自己評価を行うまでには至っていない。今後は各自が自己評価が行えるような取り組みを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議は2ヵ月に1度開催している。運営推進会議には、市担当課長や利用者も参加し、利用者から忌憚のない意見が出るなど意見交換が行われ、サービスの質の向上に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	併設の施設に「ご意見箱」を設置して、苦情・意見が出やすいようにしている。家族から意見が出された場合には、家族と連絡を取り、出された意見について職員間で協議をして、サービスの質の向上に努めている。今後は議論の経過が明確になるよう記録を残し、より良いサービスの質の向上に活かしていくことを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	立地条件上、地域住民との交流が難しい中、近隣の小学校3年生による学期ごとの年3回の訪問があり、音楽会に招待される等の交流がある。また、地域の区長もホームをよく訪問され、地域との交流に向けたアドバイスももらっている。夏祭りにできるだけ参加し、地域との交流に努めている。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域密着・地域生活継続」を意識し、個性を尊重し、馴染みの関係を築くことに配慮した理念を管理者・リーダーを中心に職員で作成した。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をいつでも確認できるよう、携帯用のケースに理念を入れ意識付けを行い、職員の意見を吸い上げながら、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校3年生による学期ごとの年3回の訪問があり、音楽会に招待される等の交流がある。また、地域の区長もホームをよく訪問され、地域との交流に向けたアドバイスをもらっている。夏祭りにできるだけ参加し、地域との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の第三者評価をもとに、管理者・リーダーを中心にして少しずつ改善を行った。その改善内容は職員に回覧し、今後のサービスに反映するよう努めている。		自己評価は、管理者・リーダーを中心に作成されているが、現場の意見をより反映させていくためにも、職員一人ひとりが自己評価に取り組むことを検討してみてもどうか。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヵ月に1度開催している。運営推進会議には、市担当課長や利用者も参加し、利用者から忌憚のない意見が出るなど意見交換が行われ、サービスの質の向上に努めている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議は市担当課長も出席しており、ホームの現状を把握してもらっている。月1回介護相談員の派遣があり、相談員を通じて市町との連携に取り組んでいる。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族に対しては、訪問時に利用者の日々の様子を報告している。金銭管理については、毎月レシートを送付して報告している。訪問の少ない家族等には、メール等を活用し連絡している。</p>		<p>1年間に2回ホーム便りの発行を予定しているが、面会の少ない家族への報告も含めて、ホーム便りの発行頻度を増やしていくことが望まれる。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族は、併設施設の中央ホールに設置してある「ご意見箱」を利用している。管理者は、家族から意見が出された場合には、家族と連絡を取り、出された意見について職員間で協議をして、サービスの質の向上に努めている。</p>		<p>家族から出された意見については、管理者・リーダーを中心に検討し、運営に反映できるよう努めているが、記録として残されていない。今後は議論の経過が明確になるよう記録を残し、より良いサービスの質の向上に活かしていくことを期待したい。また、家族がより意見を出しやすくするためにも、併設施設だけでなく、ホーム内にも意見箱を設置することが望まれる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>できる限り「馴染みの関係」を大切にし、異動や離職があった場合には、離職者と入職者による1ヵ月の引き継ぎ期間を設けて、利用者に影響が出ないように配慮している。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症研修については、法人が研修費・交通費を負担し、できる限り研修を受講できる機会を設け、正規職員は交替で受講している。研修後は、復命により他の職員に対して伝達講習を行っている。</p>		<p>今後は認知症関連の研修だけでなく、幅広い研修の機会を設けるなど、職員のキャリアや力量に応じた研修を円滑に実施していくため、外部研修への参加も含めて年間の研修計画の策定が望まれる。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>平成20年3月に、市内4事業所でグループホーム連絡協議会を立ち上げ、年4回情報の共有を行っている。現在は管理者のみが参加しているが、今後は職員も参加して、サービスの質の向上に取り組むことにしている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>申込時に、利用者本人・家族にホームに来てもらい、ホームの雰囲気に馴染んでから利用できるよう配慮している。必要であれば、体験入居を行うことも検討している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>理念である「馴染みの関係」を大切に利用者への声かけを行っている。時には、職員の悩みや相談事などに対して、相談にのってもらったりしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントを中心にカンファレンスを全職員で行い、参加できない場合は申し送りを行って、一人ひとりの把握に努めている。思いや意向の把握が困難な利用者に対しては、様子を観察するなど利用者に寄り添いながら把握するよう努めている。</p>		
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は職員の意見を取り入れセンター方式を採用している。本人・家族・関係者の希望を聞き、全職員で意見を出し合い、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>通常は、3～6カ月に介護計画の見直しを行っている。業務日誌の中で変化に気付くように、その都度赤で囲み職員間で情報共有し、必要時は随時利用者・家族と相談し、その時の現状に即した介護計画に変更している。</p>		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制を活かし、医師、看護師、管理栄養士等と連携を取りながら、利用者の健康管理を行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	耳鼻咽喉科、歯科等市内の医師と連絡を取っている。現在も他市に通院されている利用者に対しては、入居後も通院継続することで、適切な医療が受けられるように支援している。他の利用者についても、市内医療機関や併設病院で受診している。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を用いて、家族に説明している。また、協力医療機関の医師も月に何度かホームに来てもらい、家族との連携のもと、重度化に向けた体制を取っている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員採用時に、守秘義務や個人情報保護の徹底を図っている。「目立たずさりげなく」を心がけ、声かけについても自己決定ができるような配慮を行っている。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	ホームとしてのおおまかな流れはあるが、一人ひとりのペースを大切に過ごせるよう支援している。例えば、起床や睡眠の時間帯に、併設の介護老人保健施設から音楽が流れるが、利用者はその音楽にとらわれることなく、利用者のペースで睡眠がとれるよう配慮している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は併設施設で行われ、盛り付け等はホームで行っている。後片付けは下膳のみとなっている。月2～3回は、利用者の希望を取り入れ、一緒に調理やおやつ作りを行っている。		食事が楽しみなものになるよう、できるだけ利用者の希望にそった献立作りや料理を行う機会を増やしていくことが望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は、毎日入浴ができるように支援している。利用者の希望で毎日入浴している人もいる。入浴時間や入浴方法は、利用者の希望に合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの楽しみや特技を見出し、編み物や花・野菜作り等職員と一緒にやっている。また、利用者家族が木工細工等でボランティアに来ていただいております、利用者と一緒に木工細工等を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは高台にあり、坂道がきつく、徒歩での外出は難しく月数回しか行っていない。できるだけ利用者の意向にそって行っていきたいとの管理者・リーダーの意向がある。		立地条件上外出が難しい面もあり、限られた回数での外出支援となっているが、その中でも利用者の希望を反映させた外出支援に取り組むことが期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は、24時間鍵をかけておらず、玄関もタッチ式の自動ドアにしている。利用者が外に出ようとした時などは、職員もさりげなく一緒に外へ出て近くを散歩したり、行動を共にして支援している。		引き続き鍵をかけないケアの取り組みについて、職員全員で話し合いの機会を持ち続けることが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>民家とは離れた場所にあり、併設施設と共同で年2回消防避難訓練を行っている。また、マニュアルも作成して、訓練時の記録も残している。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量・水分量とも利用者個々に記録している。また、栄養管理は併設施設の管理栄養士のアドバイスを受けて行っており、摂取量が少ない時等は必要に応じて職員が支援している。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間には、ソファを設置し、利用者が座りやすい工夫を凝らしている。一人ひとりの居室の入り口には、手作りの花の絵が飾ってあり、誰の居室であるか分かりやすいよう配慮している。また、ホーム内の装飾も季節感のあるものになっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時や入居後も居室への馴染みのものの持ち込みを支援し、孫の写真や自分の若い時の写真等を飾り、またテーブルや・椅子など気に入ったものが持ち込まれている。</p>		

 は、重点項目。